

軽費老人ホームでの「年齢の制限を設けない集いの場— 投げ所・居場所」の開発について

取り組み内容のポイント 軽費老人ホームの多目的ホールを使い、利用については制限を一切、設けない必ず何かをするという決め事はなく、集まり、語り合い、時には物を作り、一緒に歌い、遊びや趣味から繋がって、時間を共にし、血縁に限らない様々な『縁』を作っていく。

大阪府

社会福祉法人

豊年福祉会

〒576-0016 大阪府交野市星田8-6-7

TEL: 072-891-2029 FAX: 072-891-2093

◆法人設立年

昭和55年

◆法人実施事業

- ① 経営施設数合計：11施設
② 経営施設・事業【種別毎の数】：
特別養護老人ホーム…2、軽費老人ホーム…1、
通所介護…3、訪問介護…1、居宅介護支援…
1、在宅介護支援センター…2、障害福祉サー
ビス（生活介護）…1、公益事業…1

◆法人の理念・経営方針

理念：「すべての人と共に健康で生きがいある安心した暮らしを」

基本方針：

- ・常に利用者の立場にたち、喜ばれるサービスをめざします。
- ・ソーシャルインクルージョンの理念に基づき、地域福祉の課題に取り組みます。
- ・研修などの充実を図り、利用者一人ひとりにあった専門的なサービスをめざします。
- ・みんなのために笑顔で接します。
- ・風通しのよい組織、働くことが楽しい職場づくりをめざします。

◆取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ① 定款記載の有無：記載している
② 事業報告・計画への記載：記載している

◆取り組みを実施している施設の概要

【施設名】軽費老人ホーム明星

【施設種別及び利用定員】

軽費老人ホームA型 50名定員

◆活動内容

- ◇活動開始年：平成23年6月11日
◇活動の対象者：地域の高齢者、小学生、住民
◇活動の頻度・時間：
今のところ数ヶ月に1度 3時間程度

◆活動実施の背景、実施にいたった理由

年齢を問わず、地域の中には様々な福祉課題を持つ人がいる。家族がなく独り暮らしで普段殆ど誰とも交流のない人、近所や地域のいろいろな人の中で話すことに気おくれしたり、ためらったりする人、孤立や排除されてしまいそうになっている人がいる。それらの人々が孤独や寂しさや焦りや戸惑いや悲しさをやわらげることができ、伸び伸びと安心して自分でいられるような場所—『投げ所・居場所』があれば、と考えた。

当法人には『軽費老人ホーム明星』がある。年齢も状況も様々な人が持てる力を発揮し一つ屋根の下で暮らしている。創設当初から理念として地域に開放された施設を目指し、具体的な取り組みを行ってきた。心身機能の低下を伴う高齢期のステージにあって、養われる支えあいは、幅広く他者を受け入れるソーシャルワークの実践の場となっている。その懐の深さと『居場所づくり』を融合させたいと考えた。老若男女問わず、仕事に就いている人いない人、幼児も中学生も、幅広い年代の人が集まり、そこに軽費老人ホームの入居者も交流し、気楽に集えて交流する場所であることを目指したい。

◆実施内容

平成23年6月11日に初めての集まりを行った。計大人8名（地域住民であるも保健師、社会福祉士として就労している人が数名いる）、小学生3名 保育園児1名 12名。

【行った内容】自己紹介、色紙で七夕さんの短冊や飾りづくり、健康相談と足の体操、カードゲーム、囲碁将棋、想いの語り合い

【場所のセッティング】

- ① 薄い敷き布団とタオルケットを2組敷く。⇒「こういう気軽な場所なのですよ」というメッセージ
- ② 応接セット・椅子とテーブル③座机二客④ポットとお茶とお菓子

【ツール】

- ①色紙 ②文房具—はさみ、マジック、ペン ③カードゲー

◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

活動をしてみて、以下のような効果があったと考察する。

まず、普段どこかに行くあてがない人にとっては、《予定ができる楽しみ》ができ、高齢男性Hさんは数日前から行くところがあることが楽しみだったと言われた。Hさんの近隣者であるSさんは二人が同じ目的で同じ行動をすることで、親しみを感じていた様子だった。また、3歳児Mちゃんに「おじいちゃん」と懐かれふたりは向き合ってカードゲームを行い、Hさんは7歳児K君と将棋をするという《子どもと交わる楽しみ》があった。HさんはK君に将棋を教え、人に何かを教えることができる《有用感をもつ楽しみ》を味わった。高齢で持病があるSさんとHさんは参加者の中に保健師として働いているRさんに《健康面の相談ができ、体操も教わり新たな知識を得る》ことができた。

子どもたちの側からすればMちゃんやK君にとっては、普段あまり交わることのない小学生やおじいちゃんと遊び、《年代を超えて交わる楽しみ》を知った。前日に軽費老人ホームとの交流会で来てくれた地域の小学校の生徒2名が、何の戸惑いもなくホームに「また遊びにきたい」と思ってくれて自然に仲間に入ってひと時を過ごし、《地域の子どもが来て、見知らぬ人の中で交わる楽しみ》ができた。

今回は6月ということもあり、色紙で七夕飾りを作ったのだが、色を相手にするので気持ちの華やぎがあった。願いごとを託すということは世代や年齢を超えて関心を持って取り組めることであり、《みんなで同じことを楽しむ》という一体感を味わった。

この会の始まりから終わりまで、軽費老人ホームの入居の方たちが外部からの人々をにこやかに受け入れ、《施設として、多世代の方がホームに

来ていただきホームとして活気が出た》。

終了後の声として、「自分はずっと孤独に過ごしていたから、ああして大勢の人の中にいてうれしかった。」「おじいちゃんと遊んで楽しかった。」「子どもが近寄ってきて、可愛かった。」「子どもが孫みたいと思った。」という言葉が並んだ。

◆今後の展開

遊び（心）や趣味、楽しみからつながって、時間や場をともにすることで地域の中の大家族（血縁に限らない、さまざまな“縁”を構築していきたい。

暖かみのある場所であり、必要に応じて学びの場所にもして、生活に必要な知識やノウハウを身につける機会の提供場でありたい。

行き場を見つけにくい人々の『拠り所』を目指し、ソーシャルインクルージョンの実践につなげていきたい。

◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 4名
（職種等：社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等）
- ・取り組みを実施している施設の事業規模
（平成22年度決算の事業活動収入） 120,000千円
※法人全体の事業規模（同上） 1,140,000千円



近くの子どもも飛び入り参加



三世代？四世代？の交流



年齢差70才の将棋対決！



靴を脱いでのくつろぎの時間